

20日(金)

▶15:15—

『罪の手ざわり』129分



監督・脚本: ジャ・ジャンクー  
プロデューサー: 市山尚三  
出演: チャオ・タオ、チャン・ウー、ワン・パオチャン、ルオ・ランシャン、チャン・ジャイリー、モン・ハン、サンミン、ワン・ホンウェイ

利益を独占する実業家への憤怒を爆発させる炭鉱夫。強盗を繰り返す出稼ぎ男。客からの執拗なセクハラに遭う不倫中の女。職を転々として追い込まれていく青年。4人の男女の事件には、現代中国の、貧富の格差に起因する不平等感や人格の危機が反映している。

▶18:30—

『恋の渦』138分



監督: 大根 仁  
原作・脚本: 三浦大輔  
制作: 山本政志  
出演: 新倉健太、若井尚子、柴田千紘、後藤コウミ、松澤 匠、上田祐揮、澤村大輔、圓谷健太、國武 綾、松下真治

コウジとトモコが同棲中のワンルームで鍋パーティ。オサムとユウコを引き合わせるための男女9人の部屋コンだったが、ユウコのルックスに男が全員ドン引き! すべてが空回りのままコンパが終わると、男女9人の恋心と下心、本音と嘘が、あちらこちらで炸裂!

開場は、上映開始の15分前です。



チケット発売日: 2014年12月23日(火・祝)

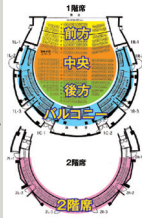
[料金] 全席指定

▶1回券(日時指定): [Pコード:553-750] 800円

▶1日券(日にち指定・限定160席・前売りのみ): [Pコード:553-751] 20日:1,300円 21,22日:2,000円

【お求め先】 (電話 10:00-18:00) (窓口 10:00-19:00)  
ミュージックチケットカウンター 04-2998-7777  
チケットぴあ 0570-02-9999  
ロソンチケット 0570-000-407 (10:00-20:00)

●区域「前方」「中央」「後方」「バルコニー」「2階席」のいずれかを選んでご購入いただけます。  
●日券は「中央」「後方」のみとなります。  
●ミュージックチケットカウンターでご購入の場合、直接座席を指定することができます。  
●上映後は映写機チェックのため、いったんロビーにご退場いただきます。  
●前売券は開催前日まで販売しております。  
尚、チケットぴあでの前売券予約は開催4日前までとなります。  
●未就学児の入場はご遠慮いただいております。



[主催・お問い合わせ先]  
公益財団法人 所沢市文化振興事業団  
04-2998-6500 〒359-0042 所沢市並木1-9-1  
http://www.muse-tokorozawa.or.jp

21日(土)

▶11:00—

『ある精肉店のはなし』108分



監督・脚本: 瀬藤あや  
プロデューサー: 本橋成一  
撮影: 大久保千津奈  
大阪府貝塚市で精肉店を営む家族。7代目の長男・北出新司が、妻、姉、弟らと力を合わせて牛を育て、屠畜し、販売してきた。2012年3月、彼らが日々使用してきた食肉処理場が102年の歴史に幕を閉じる。それから約1年半にわたって北出家の暮らしに密着。

▶14:15— [2本立て上映]

『Seventh Code』60分



監督・脚本: 黒沢 清  
出演: 前田敦子、鈴木亮平、アイシー(愛茜)、山本浩司

秋子は、東京で一度だけ会った男・松永に再び会うため、ウラジオストクに行く。だが、再会した松永は秋子を見ていないばかりか、すぐに姿を消してしまう。秋子は松永を探しながら食堂で働くうち、廃工場に手がかりがあるらしいことを知るのだが…。

『もらとりあむタマ子』78分



監督: 山下敦弘  
脚本: 向井康介  
出演: 前田敦子、康 すおん、伊東清矢、鈴木慶一、中村久美、富田靖子

23歳のタマ子は、東京の大学を卒業して数か月後の秋、父親がひとり暮らしする甲府の実家へ戻る。父親の仕事や家事を手伝うでもなく、食って寝て漫画を読む自堕落な日々。だが、父の再婚話を耳にしたことで、冬眠中のようなタマ子に変化の兆しが見えてくる。

▶18:00—

『私の男』129分



監督: 熊切和嘉  
原作: 桜庭一樹  
脚本: 宇治田隆史  
出演: 浅野忠信、二階堂ふみ、高良健吾、モロ師岡、河井青葉、山田望叶、藤 竜也

奥尻島を襲った津波で家族を失った10歳の花は、遠縁の淳悟に引き取られ、2人は紋別の田舎町で寄り添うように暮らす。いつしか2人の関係はただならぬものとなり、ある事件を引き起こすことに、彼らは逃げるように東京へ行き、ひっそりと暮らすのだが…。

[会場]  
所沢市民文化センター  
ミュージック マーキーホール  
〒359-0042 所沢市並木1-9-1

22日(日)

▶11:00—

『旅立ちの島唄~十五の春~』114分



監督・脚本: 吉田康弘  
出演: 三吉彩花、大竹しのぶ、小林 薫、早織、立石涼子、ひーぶー、普久原 明

沖縄の離島、南大東島に住む優奈は中学3年生になった。島には高校がなく、母は兄や姉が進学するときに那覇に渡つてはまた。優奈もまた、父をひとり残して島を離れる日が近づいている。さまざまな思いを抱きながら、彼女は別れの唄「アバヨイ」の練習に励む。

▶14:15—

『そのみにて光輝く』120分



監督: 呉 美保  
原作: 佐藤泰志  
脚本: 高田 亮  
出演: 綾野 剛、池脇千鶴、菅田将暉、高橋和也、火野正平、伊佐山ひろ子、田村泰二郎

達夫は、パチンコ屋で出会った人懐っこい拓児に連れられて海辺の家へ行く。古くて汚いバツク小屋には、拓児の寝たきりの父親と、母親、そして姉の千夏がいた。ある事件が原因で世捨て人ようになっていた達夫は、陰りと強さを共存させた千夏に強烈に惹かれる。

▶17:30—

『ペコロスの母に会いに行く』113分



監督: 森崎 東  
原作: 岡野雄一  
脚本: 阿久根知昭  
出演: 岩松 了、赤木春恵、原田貴和、加瀬 亮、竹中直人、大和田健介、松本若菜、原田知世、宇崎竜童、温水洋一

長崎に暮らす岡野ゆういちが、認知症が進んだ母を介護施設に預ける。母の目の前には、苦勞の多かった半生のあれこれ、亡き夫をはじめ親しかった人たちの姿が、現れては消える。ゆういちはその母を見て、「ボケるのも悪かことばかりじゃなかかもな」と思う。

全上映回でゲスト来場を予定

全日、ゲスト来場者のトーク後に、ロビーでのサイン会を予定しています。

●やむを得ない事情により、ゲスト・プログラム等変更になる場合がございます。ご了承ください。●上映開始後は場内が暗くなるため、お手持ちのチケットの座席のご案内できません。上映開始時刻に遅れないようご注意ください。

[協力] キングレコード株式会社、株式会社スネメインバクト、東京テアトル株式会社、合同会社東風、日活株式会社、有限会社ビターズ・エンド、株式会社やしほ映画社  
[企画制作] ぴあ株式会社 PFF事務局

西武新宿線・航空公園駅東口より徒歩約10分・バス約3分  
[航空公園駅まで] ■ 西武新宿駅より約40分  
■ 池袋駅より約30分(所沢駅乗り換え)  
■ 国分寺駅より約20分(東村山駅乗り換え)  
■ 本川越駅より約20分  
[注意事項] 駐車場は大変混雑いたしますので、電車・バスのご利用をお勧めします。



第15回 ミューズ シネマ・セレクション

世界が目にする

日本映画たち

会場:  
所沢市民文化センター  
ミュージック マーキーホール

20日(金) 2015 3月

監督・脚本: ジャ・ジャンクー  
『罪の手ざわり』

監督: 大根 仁  
『恋の渦』

21日(土)  
監督: 瀬藤あや  
『ある精肉店のはなし』

監督・脚本: 黒沢 清  
『Seventh Code』

監督: 山下敦弘  
『もらとりあむタマ子』

監督: 熊切和嘉  
『私の男』

22日(日)  
監督・脚本: 吉田康弘  
『旅立ちの島唄~十五の春~』

監督: 呉 美保  
『そのみにて光輝く』

監督: 森崎 東  
『ペコロスの母に会いに行く』

全上映回でゲスト来場を予定。  
決定次第ツイッター、フェイスブック、公式HPで詳細を発表します。

Twitter @muse\_cinema Facebook musecinema

http://www.muse-tokorozawa.or.jp

所沢ミュージック 🔍 検索

※やむを得ない事情により、ゲスト、プログラム等変更になる場合がございます。ご了承ください。





# 新たな題材、新たなキャストを得て、独自の道を突き進む監督たち。その渾身作が集結!

じつと見つめる。人を、風景を、場所を、言葉を。  
静かに、優しく、切なく、熱く。  
時には卓越した笑いを纏い、或る時には、苦い想いを漂わせ。  
映画の得意分野である、集中と弛緩と、予測不可能な物語と、  
人間というもののへの興味と、  
いわゆる「愛」を満載した9作品を3日間に詰め込んでお贈りする  
「第15回 ミューズ シネマ・セレクション 世界が目にする日本映画たち」

そして、「日本映画」は、  
家族の映画が多いという印象が、海外では確かにある。  
家族の佇まいを緻密に描く作品が、  
見事に揃った本年のラインナップ。  
実は「家族」は既に多様な姿をしている、今、この21世紀。  
そのことを更に印象付ける、  
映画表現の多彩さが堪能できる9作品でもある。

ドキュメンタリーあり、フィクションあり、新人作品あり、巨匠作品あり。  
本年も、昨年に引き続き、これまでご紹介できていなかった監督たちの作品を  
中心にラインナップを心掛けた。  
そして、今更ながら「では日本映画とは何か?」という疑問に答えるべく、  
中国人監督による日本映画の傑作も紹介する。  
近年映画の世界では、製作国で国籍が表示される。劇中の言葉でも、監督の国籍でもなく、  
そのことの新鮮さも、ご紹介したい。

## 20日(金) 15:15 『罪の手ざわり』(129分)



©2013 BANDAI VISUAL, BITTERS END, OFFICE KITANO

中国の若き巨匠ジャ・ジャンクー監督。ヴェネチア国際映画祭金獅子賞(グランプリ)を受賞した『長江哀歌』(06年)以来7年ぶりの長編映画である本作は、中国で実際に起きた4つの事件から着想を得ている。罪に触れてしまう4者は、急激に変貌する社会で生きる「普通の人々」だったが、自らの境遇を変えるため極端な手段に出る。監督自身は本作を「現代中国についての武俠映画だと思っています」と語っている。

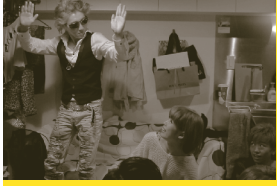
第66回カンヌ国際映画祭脚本賞 第17回トロント映画批評家協会賞最優秀外国語映画賞  
2013年フランス映画批評家協会賞最優秀外国映画賞 第7回アブダビ映画祭最優秀作品賞 第50回台湾金馬奨最優秀音楽賞、最優秀編集賞



### ジャ・ジャンクー

1970年中国山西省生まれ。北京電影学院在学中、『小山の帰郷』(97年)で香港インディペンデント短編映画賞金賞を受賞。卒業制作『一瞬の夢』(98年)で世界各国の映画賞受賞。以後、『プラットフォーム』(00年)、『長江哀歌』(06年)などを手がける。

## 20日(金) 18:30 『恋の渦』(138分)



©2013 シネマインパクト

『モテキ』(11年)を大ヒットさせた大根仁の監督第2作。山本政志監督が主宰する実践映画塾「シネマ☆インパクト」の1企画として、劇団ポツドールの主宰・三浦大輔による脚本・原作を映画化。茶髪のロン毛に豹柄に露出過多、いかにも軽薄な見た目の若者たちの、「恋」にまつわる本音のリアルさ、各キャラクターの細部と台詞の「あるある」さが、痛くもおかし過ぎて、圧倒的支持を獲得。当初の限定公開から全国順次公開に拡大された。

第8回 Five Flavours Film Festival 観客賞 第38回香港国際映画祭  
第16回ウーディネ・ファーイースト映画祭 第14回ニッポン・コネクション日本映画祭 第68回エジソン国際映画祭



### 大根 仁 (おおね・ひとし)

1968年東京都生まれ。演出家・映像ディレクターとして数々のドラマやPVを演出。初映画監督作品『モテキ』(11年)が大ヒット。日本アカデミー賞話題賞(作品部門)を受賞。『恋の渦』は、長編映画第2作。テレビ作品に『モテキ』『まほろ駅前番外地』『リバースエッジ大川端探偵社』ら話題作多数。

## 21日(土) 11:00 『ある精肉店のはなし』(108分)



映画『ある精肉店のはなし』より

食肉処理を学んだ瀨瀬あや監督は、ナイフ1本で牛を解体していく技術と、家族4人の鮮やかな連係作業に感動。彼ら北出家の日常を撮り、仕事の詳細を記録し、家族や地域の暮らし、歴史にも目を向ける。にぎやかで笑いのたえない、4世代の生活の合間に語られるのは、被差別部落に生まれたことへの思い、必死に働かぬいた亡き父の思い出。命と向き合ってきた北出家の人々の、穏やかでいて凜々しい姿が、美しい。

第14回ニッポン・コネクション日本映画祭ニッポン・ビジョン観客賞  
平成26年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門大賞 第18回釜山国際映画祭



### 瀨瀬あや (なせあや)

1974年東京都生まれ。本橋成一監督の『アクレクセイと泉』(02年)などの製作に関わる。監督デビュー作『祝の島』(10年)でシチア環境映像祭ドキュメンタリー部門最優秀賞受賞。『ある精肉店のはなし』は平成26年度文化庁映画賞文化記録映画部門大賞受賞。

## 21日(土) 14:15 『Seventh Code』(60分)



©2013AKS

もともとは前田敦子の4枚目のシングル「セブンスコード」の長編MVとして制作されたが、ローマ国際映画祭での受賞をうけ、2014年1月、1週間限定で劇場公開。黒沢清監督が前田敦子に抱く「たったひとりで生きているような雰囲気」のイメージから、異国の地を想定してオリジナル脚本が練られた。後半の緊迫のアクション・シーンと驚愕の展開に加え、「彼女なくして日本映画は存在しえない」と黒沢監督に言わしめた前田敦子の魅力を堪能。

第8回ローマ国際映画祭最優秀監督賞、最優秀技術貢献賞



### 黒沢 清 (くろさわ・きよし)

1955年兵庫県生まれ。83年、『神田川淫乱戦争』で監督デビュー。97年の『CURE キュア』で国際的に注目される。これまでの作品に『アカリイミライ』(03年)、『トウキョウソナタ』(08年)、『リアル〜完全なる首長竜の日〜』(13年)などがある。

## 『もらとりあむタマ子』(78分)



©2013 りとあむタマ子製作委員会

『苦役列車』(12年)で主人公が恋心を抱く古書店員役に前田敦子を起用した山下敦弘監督。2度目の起用となる今回の役どころは「逆ギレが得意なぐうたら女子」。盟友・向井康介が脚本を手掛け、監督にとって6年ぶりのオリジナル作品になる本作は、前田敦子の新鮮な魅力が炸裂、父役の康すおん、タマ子にあれこれ命じられる中学生役の伊東清矢のとぼけた味わいも絶妙だ。後半に登場する富田靖子のしっとりした色気にも注目。

第18回釜山国際映画祭 第43回ロッテルダム国際映画祭 第38回香港国際映画祭  
第16回ウーディネ・ファーイースト映画祭 第57回サンフランシスコ国際映画祭 第14回ニッポン・コネクション日本映画祭 第61回シドニー映画祭



### 山下敦弘 (やました・のぶひろ)

1976年愛知県生まれ。大阪芸術大学芸術学部映像学科の卒業制作『どんとん生活』(99年)で注目される。これまでの作品に『はかのハコ船』(02年)、『リンダリンダリンダ』(05年)、『超能力研究部の3人』(14年)など。最新作は『味園ユニバース』(15年)。

## 21日(土) 18:00 『私の男』(129分)



©2014『私の男』製作委員会

桜庭一樹の直木賞受賞作を、『海炭市叙景』『夏の終り』など、近年、文芸作品の映画化で腕をふるう熊切和嘉監督が映画化。映像化不可能と言われた流水シーンも圧巻だが、主人公たちが東京に出てきてからの人間ドラマの濃厚さもただものではない。浅野忠信、二階堂ふみという国際的に評価の高い主役2人はもとより、藤竜也、高良健吾、モロ師岡、河井青葉らが放つ存在感も、この禁断の愛の物語を重層的に彩っている。

第36回モスクワ国際映画祭最優秀作品賞、最優秀男優賞  
第13回ニューヨーク・アジア映画祭ライジング・スター・アワード 第62回サン・セバスチャン国際映画祭 第19回釜山国際映画祭



### 熊切和嘉 (くまきり・かずよし)

1974年北海道生まれ。大阪芸術大学の卒業制作作品『鬼畜大宴会』でPFFアワード1997準グランプリ受賞。近年の作品に『ノン子36歳(家事手伝い)』(08年)、『海炭市叙景』(10年)、『莫逆家族 バウギャクファミリー』(12年)、『夏の終り』(12年)がある。

## 22日(日) 11:00 『旅立ちの島唄~十五の春~』(114分)



©2012『旅立ちの島唄~十五の春~』製作委員会

那覇から飛行機で1時間かかる離島・南大東島。島に高校がないため、子どもたちは15歳の春に親元を離れる。モデル・女優として活躍する1996年生まれの三吉彩花が初々しく初主演をつとめるほか、吉田康弘監督のデビュー作『キトキト!』(07年)で母親役を好演した大竹しのぶが今回も母親役に登場、寡黙な父親役を小林薫が抜群の存在感で演じる。巣立ちを迎える少女の1年間に描き、劇中歌「アバボーイ」が深く心に沁みる。

第14回ニッポン・コネクション日本映画祭  
2014年シンガポール日本映画祭



### 吉田康弘 (よしだ・やすひろ)

1979年大阪府生まれ。井筒和幸監督の『ゲロッパ!』(03年)をはじめ、数多くの作品の制作に参加。07年、『キトキト!』で監督デビュー。そのほかの監督作品に『江の島プリズム』(13年)、『ケララのいた夏』(14年)がある。

## 22日(日) 14:15 『そのみにて光輝く』(120分)



©2014佐藤泰志/『そのみにて光輝く』製作委員会

1990年に自ら命を絶った小説家・佐藤泰志。『海炭市叙景』(10年)に続く佐藤作品の映画化である本作は、絶望しかない人生を生きる男女を描く。撮影地は佐藤の故郷・函館。主演の綾野剛が、自分の心の傷よりもさらに深い闇を生きている女性に出会い、彼女のすべてを受け入れていく男を好演。池脇千鶴も、重すぎる運命に強気で向き合う女性を全身で演じる。これまでコミカルな家族映画を撮ってきた呉美保監督にとっても飛躍の作品になった。

第38回モントリオール世界映画祭最優秀監督賞



### 呉美保 (お・みほ)

1977年三重県生まれ。大阪芸術大学映像学科卒業。初の長編脚本『酒井家のしあわせ』が2005年のサンダンス・NHK国際映像作家賞/日本部門を受賞。翌年、同作で長編映画監督デビュー。『オカンの嫁入り』(10年)で、新人監督賞・新藤兼人賞の金賞を受賞。

## 22日(日) 17:30 『ペコロスの母に会いに行く』(113分)



©2013『ペコロスの母に会いに行く』製作委員会

長崎在住の漫画家・岡野雄一が自身の経験を元に描き、日本漫画家協会賞優秀賞を受賞したエッセイ漫画を、撮影開始時85歳、長崎出身の森崎東監督が映画化。主演は、やはり長崎出身の岩松了と、89歳にして映画初主演となる赤木春恵。認知症のさまざまな症状をリアルに描きつつ、日々の幸せを描き出して、ホロリとさせては笑わせてくれる。このまったく新しい介護喜劇映画は、2013年キネマ旬報日本映画ベスト・テン第1位に輝いた。

第14回ニッポン・コネクション日本映画祭ニッポン・シネマ賞  
第15回全州国際映画祭



### 森崎 東 (もりさき・あずま)

1927年長崎県生まれ。京都大学法文学部卒業後、松竹京都撮影所に入社。1969年、『喜劇・女は度胸』で監督デビュー。これまでの作品に『男はつらいよ フーテンの寅』(70年)、『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでが党宣言』(85年)、『エトワリはハダシだ』(04年)など。